

繪本通寶志

40

繪本通寶志卷之六目錄

蘆あしに鶺鴒はらう

葦あしに鷺さぎ

芦あしに鷹たか

浮うき鳥とり鴨かも

鴛うき鴦とり

鴛うき鴦とり

鶴せき鴒こ

濤たうに鶺鴒はらう

梅うめに鶺鴒はらうに鶺鴒はらう

地ち錦にしん八頭はつがしら

薊あざみに蝶てふ

牡丹ぼたんに鶺鴒はらうに鶺鴒はらう

枯か木き鶺鴒はらう

芙蓉ふように鶺鴒はらう

様さま小鶺鴒こはらう

鳥あ鳳ほう

楓あきに鶺鴒はらう

松しょうに石いしに鳥とり

鳥類後編六

唐木に鷓鴣

菘菜より蜀雞

柏よ練鵲

桐に鳳凰

海紅子より白鵝

長春より四十雀

菊に昌女

冬木連雀

杜鵑花より山鶴

柳よりほろめ

和春鳥より小鳥

草木花鳥の部

鳥の其位處ふらして形勢あり水にありあふ浮あり水色小  
 佐の山に佐林は佐あり野小佐原に佐を泉をあひまそ大根分  
 あり鷹鷹の形あり鷹鷹鷹鷹のぶと鷹鷹鷹鷹ありせされの鶴を  
 水色の名あり孔雀鳳凰の山多や孔雀の葉團は多し又全形あり  
 金光あり面あり黄々々南足うとと巨尾巨尾は并か紫羅の末に珠を  
 何とも縁して一赤と赤あり海棠牡丹花さりのは毛羽と折ゆ  
 ありらひて形の名を時と知し又赤と赤とありらひる風風を  
 佐鳥の長なり林雲の名あり見人なりとあり鶴と鶴と傳りにを  
 雛のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 長さ尾雙葉葉とととととととととととととととととととととととと  
 形未平く珠の章あり又赤くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 孔雀尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾尾  
 或の飛回る地とあり飛とあり飛とあり飛とあり飛とあり飛とあり

鳥部

三

蘆小鶴

水多きり  
あに八舞と  
とひ中  
是なり  
さだ  
こ  
なん  
ふの家  
あざこ  
はるま  
是なり



鳥鑑 卷之六



鳥鑑 卷之六

葦の鷺



かさねぐらに  
懐あり是をく  
とんば美あり  
目黒く不うと  
くら



白宿子から不懐  
ひ目くら美  
不美のくらま  
くら美あり  
是をく



鳥錦袋後編六

鳥錦袋後編六

蘆鴈ろがん

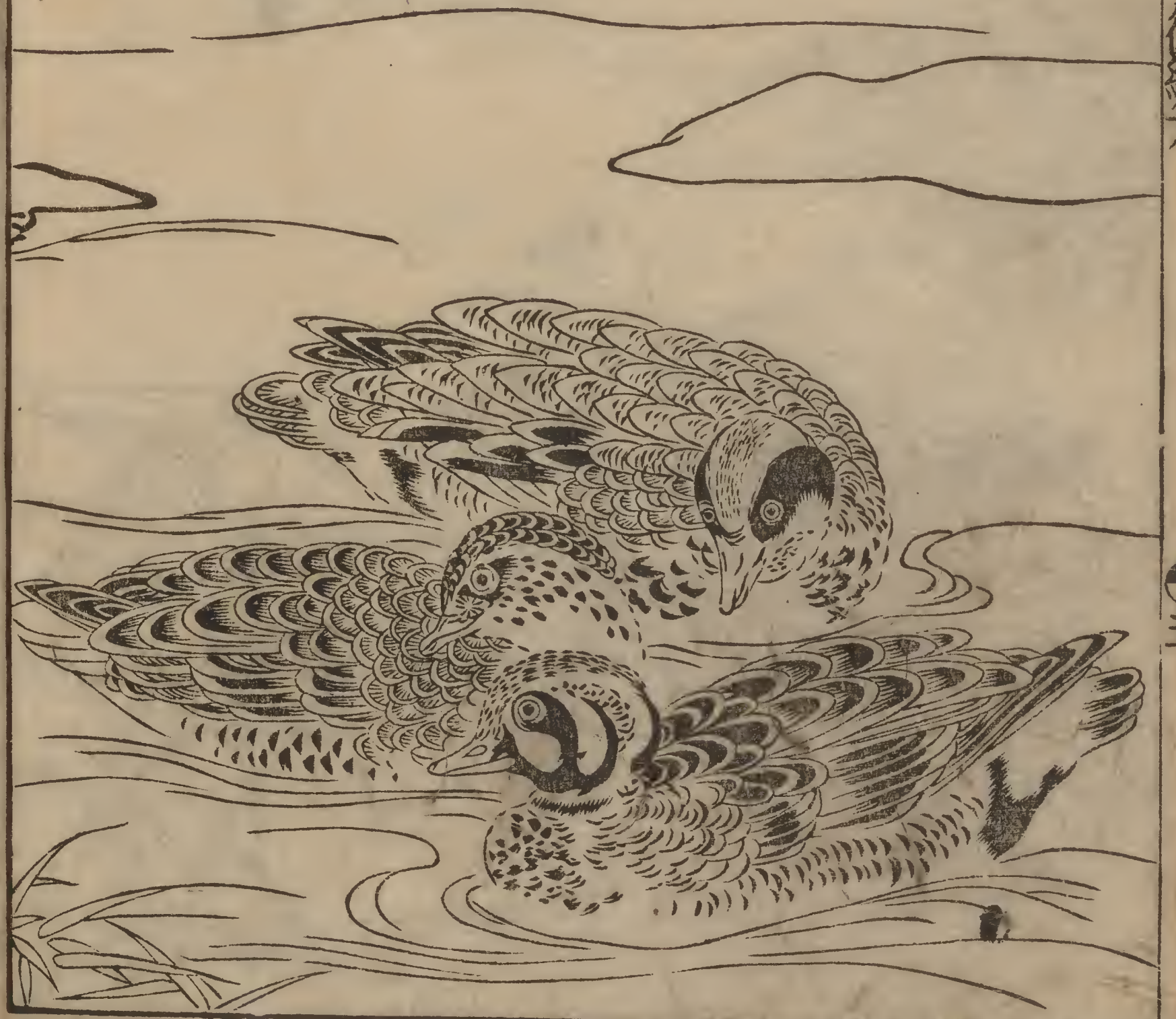


鳥類図説

鳥類図説

浮鳥鴨之類

かん鴨がどり  
あいろう  
うかりあつどり  
あま  
是あまの浮鳥を  
是まがらくあまを  
あまをうりあま  
つなり



真鴨

か  
から  
青  
かき

雌  
朱  
仕



鶺鴒  
鶺鴒



鶺鴒

かいらめんま  
春らんせう  
まこと縁ま  
おとこんま  
そらまうご







燕ツバメ



鶴ツル

燕ツバメ

鶇ひざり

能くせむま

くまひかひのりや

うすくかろ

翁おきな

ひざり

うらむくがま

かろくも足あり



八頭やちう

戴鳥の類さけぶさけの横とろ

羽八あつち名とろ

こゝろうの又来とろ



地錦やまづ

紫大と七八寸久兼仕

本らつてつるあつち

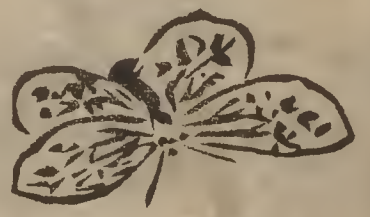
紫のうらむくがま

このうらむくがま

生あんどら

薊あき

おふあき 薊あき 花はなうすむくされた大にわしく笑あはれあけ  
いさかひ 花はな刺さし 今いままじんわがまをさし白しろ紫むらさきとをなす  
いさかひ 野薊のあき 花はな黄き文ぶんさんりのぶくくみすてかどさしたけのぶく  
あき ちりくふあけ 三さんやこ中ちゆうまむらう





海裳  
 ういろう  
 花やけの  
 うすく  
 入



孔雀

錦雞

横黄



雄

頬中くしとびすら美くろの章めり  
脊のあざあとの尾かた  
のり毛朱とく紫くさ

雌

美くさすくさ  
とくの紫



鳥類図説

芙蓉

花仕立生あんどくあり  
外先よりこま生あんどくあり  
ごめんどらぶさ内なりより落すま  
さかるとりごめんらま生あんど  
くあり



ありせん  
のどく  
くあり

fourkas

芙蓉

芙蓉

鶯  
うぐいす  
うぐいす  
うぐいす



鶯  
うぐいす  
うぐいす

鳥鳳  
おみどり  
とんぼ  
とんぼ  
とんぼ



鶯  
うぐいす  
うぐいす

廿四



百舌鳥もどろ かりかり ありあり



鶯うぐいす かりかり ありあり

鳥書

十五

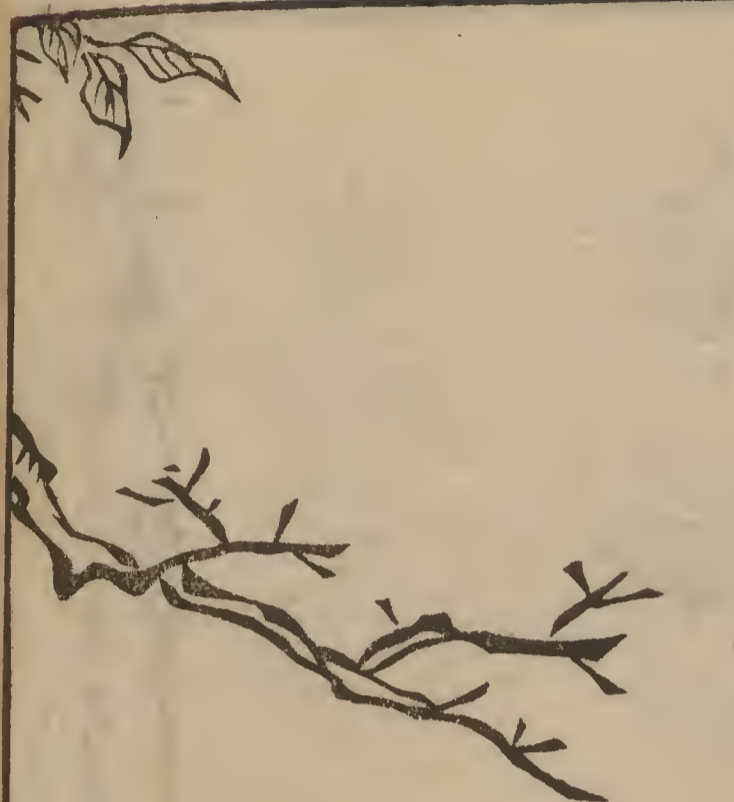
鳥書

十五



鶉吐殺雞

鶉吐殺雞の鳥、鶉の雛子に似て羽は獨り多きより、羽の色は黄白あり、  
喉の間に道ありて、凡そこれに鳥の羽の色をいふべし、  
と、鳥の羽の色は、天の氣の付、喉の下なる肉袋と伸のそぶ、大さひさこり  
おしく、又かからず、二すさうりある、毛角あり、又、羽平なり、ふんふんと、  
さして、のびと、さし



昌國  
仕立極くありか  
のうし  
さうふ 大白



蜀雞

大白  
勢悪か  
しびり大さまり



鳥錦式後編六

寶金生行

連雀

かこら雀のごとくさうし大なりなり交かき羽尾黒く先に赤と珠  
のりかやまふらごのごとくめがりのり目の内さう足喉のし  
目の通りつとさうさうし後うさ白し

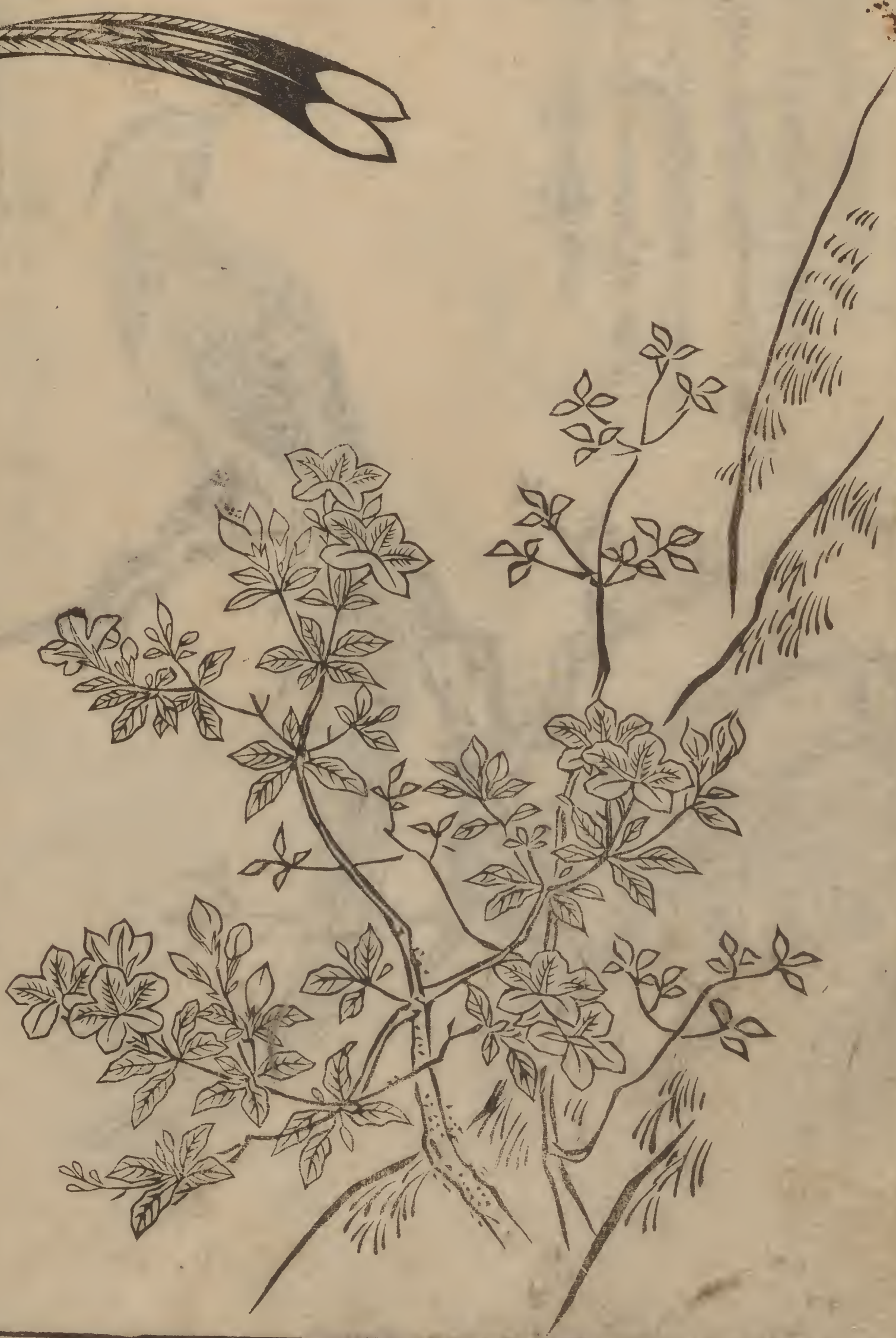
歌はあぢと帳といひあさんやとさ  
ゆふ帯の帯にあらとささんやとさ  
りやうまぞ

練鵲



かこら雀のごとくさうし大なりなり交かき羽尾黒く先に赤と珠  
のりかやまふらごのごとくめがりのり目の内さう足喉のし  
目の通りつとさうさうし後うさ白し

寶金生行



つとまきあべ仕立

山鶴



骨くまくらんどうらま羽尾骨に甲一先子白さ玉わり  
くら白くかさらま目そ一足朱中ふらあさ死  
のどむ絲ららそら白

相の仕立花のさびあうあんーま



鳳凰



柳

中春以花軍之晚去不葉之也  
秋落葉也乃物之於此也  
中冬以目之結云



海松子松 史記曰松栢百木長王安石字說小松猶公也故從  
 公松樹礫何修聳多節其皮粗厚有鱗形其葉三針  
 者為括子松五葉者為松子松松毬大而鱗間子兩双形如椎謂  
 是松子五葉枝嫩葉細繁木老時枝垂葉正面小見故以葉の形  
 九一和是と漢松と云全體大和松異とほ葉色深木色黒赤



白鷗

仕立全白く... 根らるる毛あり... 是葉の... 仕立



大和松小鳥

松の早春に夕暮く中暮小鳥用と  
晩暮小鳥の松條とて暮る小  
鳥の松の枝の中暮に古葉を初秋の  
古葉を初秋の暮る其の合く具足  
松の松の暮る九月の暮るとす





富錦集

方終

長春ちやうしゅん小四十雀せうしじゅうしやく

大さ雀のおとこ首黒くオシロ胸のほ小白玉の章あり眼中嘴足羽先皆黒い皆い堂を尾い尾黒く腹白く下嘴のりともひひ後尾を黒く第一ま



